

坪^{つぼ}
井^い

倉^{くら}
重^{しげ}

千^{せん}
同^{どう}



りょうとん
了屯のすむ倉重村と、くらしげむら隣となりの坪井村は、つほいむら
村むらのさかいのことで、いつも もめごとがたえなかつた。

「ここは、わしの土地とちじゃ。」

と、倉重村くらしげむらの若い衆わか しゅうが言いえば、

坪井村つほいむらのもんも負おけておらず、

「んにゃ、ちがうぞ。」

ここは、わしの土地とちじゃけん、でていけえや。」

と、いつもけんかばかりしとつた。



「どうしたもんよのう。」

と、倉重村くらしげむらと坪井村つほいむらの長老ちやうろうたちは考かんえた。

「おー、ええこと考かんえた。」

「わしの村むらの力持ちからもちの了屯りやうとんと、

おまえの村むらの力持ちからもちのニンサクで

力ちからくらべをしたらどうかのう。」

「そりゃ ええかんがえじゃ。」

「じゃが、どうやって、力ちからくらべをしようかのう。」

いろいろ考かんえたすえ、山やまにのぼって、

ひとつの大きおおきな石いしを、

なんかいも なんかいも 投げ合な あって、

勝かったほうの言いい分ぶんを聞きいて、

境さかいを決きめようということになった。

それから、倉重村 坪井村の

みんなが見まもるなか、

山から、

石の投げあいが始まった。

はじめは、倉重村の了屯さんの番だ。

「えーい やー」。

